

平成 4 年 3 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859)

青梅鉄道に関する資料

広報「おうめ」の“青梅再発見”欄で、大正4年の時刻表のことを書いたので、今回は青梅鉄道に関する資料を若干載せてみます。

☆ 創立願いは、明治24年、時の内務大臣品川弥二郎に提出

甲武鉄道（現在の中央線）創業から3年後のことで、次の16名の連名による出願でした。

指田茂十郎（羽村） 平沼 専蔵（埼玉） 小沢 太平（沢井） 田村半十郎（福生）

山崎喜右衛門（青梅） 平岡久左衛門（青梅） 滝沢 悦蔵（青梅） 根岸善太郎（青梅）

野崎利兵衛（青梅） 稲葉又右衛門（青梅） 根岸 太助（青梅） 下田伊左衛門（小作）

中村半左衛門（大神＝現昭島市） 紅林徳五郎（郷地・同） 浅野総一郎（浅野セメント）

奈良原 繁（甲武鉄道）

☆ 目的は青梅地域の石灰山の開発

同願いの中に「……且同地方（青梅）ニ^{すこぶ}頗ル良好ナル石灰無尽ニ有之、近来建築等ノ改良有ルニ伴ヒ 之ヲ他ニ輸出セントスル……以下略」とあることでわかります。

☆ 創業総会は明治25年7月3日、坂上旅館（青梅）で

営業所は青梅町青梅296番地、資本金10万円、株主総数2000株で有限責任
青梅鉄道株式会社が発足

☆ 営業開始は明治27年11月19日

本社、青梅町青梅192番地（現在の青梅駅舎所在地）

人員、専務取締役以下石炭夫、給水夫、まで含め合計78名

施設、機関車2輛、客車9輛、貨車30輛

停車場、青梅、小作、羽村、福生、拝島、立川（28年12月、日向和田駅完成）

27年度中の収支、収入3986円53銭、支出4637円16銭4厘

☆ 全線電化は大正12年4月25日、社名を青梅電気鉄道株式会社と改める。

☆ 国に買収、昭和19年4月1日

☆ 会社解散、昭和20年10月29日

☆ 会社復活、昭和25年6月25日

☆ 平成2年6月現在の株主数519人、最大株主浅野セメント、一株の額面に主に50円、発行株数11万8000株、資本金451万円

（文責 川鍋幸三郎）